

運 営 推 進 会 議 事 録

開催日 平成 29 年 12 月 12 日 (火) 14:00 ~ 15:00

場 所 生活介護リハビリセンター吉田事業所 2階事務室

備 考 平成 29 年度 2 回目

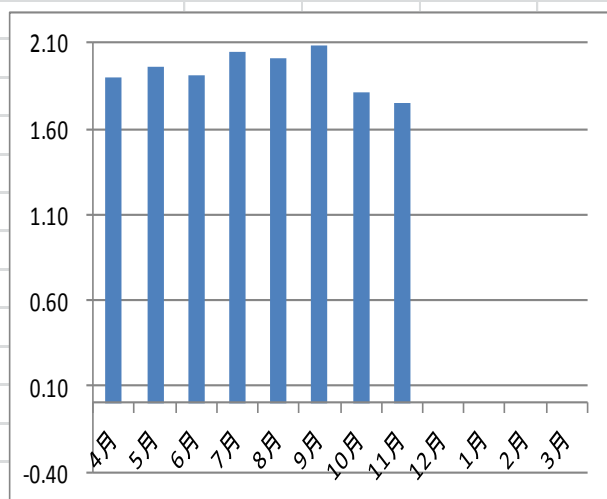
参加者 長野市 : 柳澤 様
吉田包括支援センター : 長澤 様
知見者 : (株)ワンライフ 小林 様
当事業所職員 : 北澤 吉家

次 第

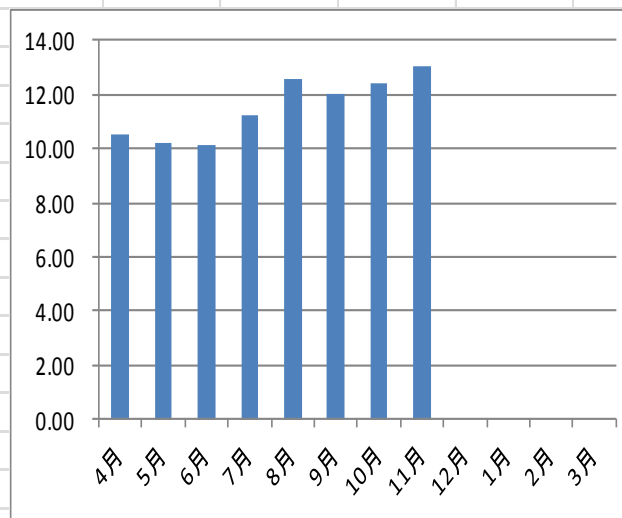
1. 運営状況
2. 活動内容
3. 当事業所の特色
4. 運営・活動内容について参加者の皆様から

1. 運営状況

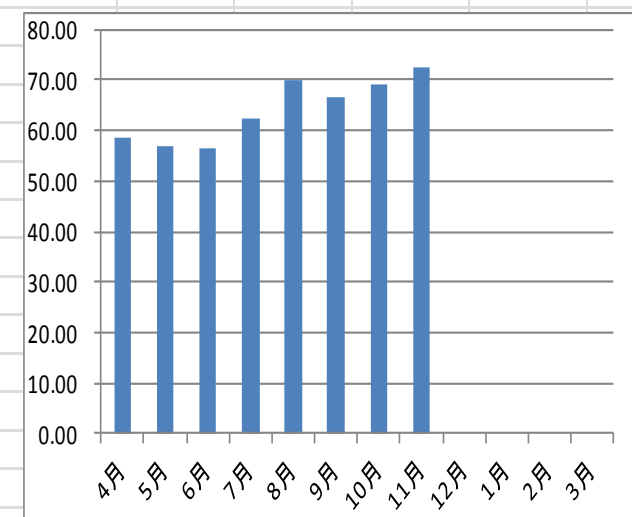
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均介護度	1.90	1.96	1.92	2.05	2.02	2.08	1.81	1.75				
1日平均利用者数	10.52	10.22	10.15	11.19	12.56	12.00	12.42	13.08				
稼働率	58.44	56.79	56.41	62.18	69.75	66.67	69.02	72.65				



平均介護度



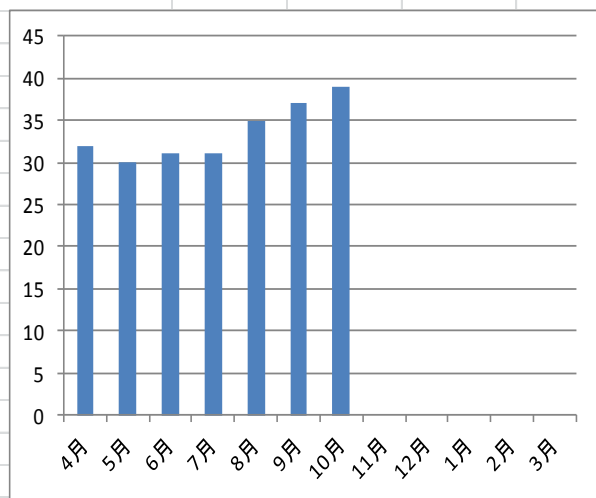
1日平均利用者数



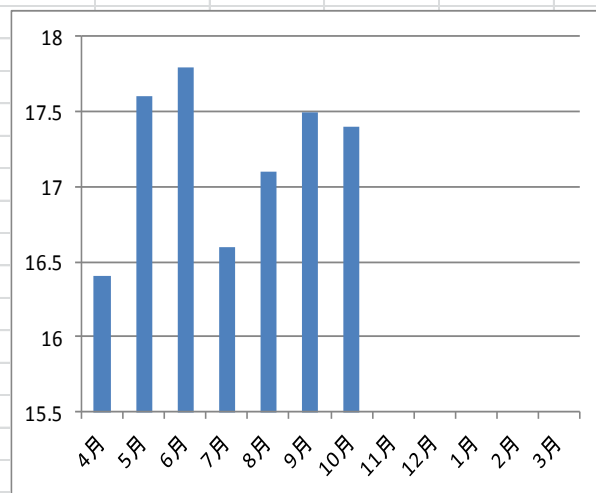
稼働率

吉家) 夏から秋にかけて稼働率は上がってきたが、冬場ショート利用などで下がってくると思われます。
 当デイサービスは定員は18名ですが、個別の入浴の質(入浴時間)を下げたくない、またトイレが1つしかないので、利用者様に不自由がない16名を基準に利用者の受入・曜日の調整をしている。利用者数は、1日12名～16名で推移し平均は13名前後
 平均介護は、2を超えていましたが寒くなり介護度の高い方の施設入所が立て続けにあり、11月は2を切った。

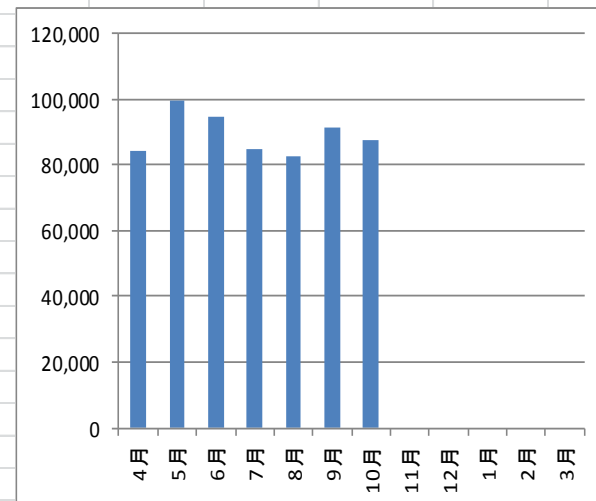
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
月間利用者数	32	30	31	31	35	37	39					
平均利用回数	16.4	17.6	17.8	16.6	17.1	17.5	17.4					
利用単価	84,379	99,441	94,840	85,079	82,768	91,221	87,364					
取引ケアマネ	16	17	16	17	16	19	19					



月間利用者数



平均利用回数



利用単価

吉家) 契約利用者数は、現時点で40名。一人当たり平均利用は週2回程度。

契約ケアマネは、地元の吉田地区は少なく、高田、三輪エリアのケアマネが多い。もう少し地元の方に利用をして頂きたい。

全体的にもう少し稼働率を上げる必要がある。

2. 活動内容、当事業所の特色



デイサービス 《脳と身体のトレーニング》 生活介護リハビリセンター

認知症の方とご家族をまごころめてサポート

利用者様の認知レベルに合った個別の学習療法や音楽療法や集団体操、調理、個別日記等を行い、認知症の進行を防ぎます。役割を持って頂き居場所となるよう取組みます。
地域密着型の規模だからこそできる一人ひとりに寄り添ったケアを行います。

認知症予防 初期 中期 引きこもりがち 物忘れが始まった 怒りっぽくなった など



家庭と同じ『個別』入浴は利用者様がリラックスできる大切な空間です。個浴で1対1のコミュニケーションを大切に、心身ともに癒される時間をお過ごし頂いております。

日常生活の維持に着目した個別の機能訓練

通常リハビリ（筋力・歩行・可動域・マッサージなど）に加え、その方が在宅で生活していく為に必要な動作（トイレ・更衣・スロープ・階段など）、ケアプランにある目標達成に向けてのリハビリを行います。筋力トレーニングだけではなく、在宅生活が維持できるように体の使い方も一緒に考え、トレーニングをしていきます。



半日の方も大歓迎

営業：9:00～16:20 月曜日～土曜日（祝日営業）
定員：18名 送迎エリアを広くっております。

☎026-219-2037



《脳と身体のトレーニング》 生活介護リハビリセンター

レクリエーション



調理レク 花植えレク
歌謡レク 将棋 他
レクリエーションが充実
定員規模が比較的小さく
職員も手厚い為、個人の
嗜好に沿ったレクが可能

認知症リハビリ



認知症予防の為、クロスワード、塗絵、漢字、
数式パズル、工作、切貼紙などの作業療法も
積極的に取り入れています



送迎エリアを広くっております、お気軽にご相談ください

若槻、上野、檀田、上松、三才
長池、高田、稲葉、栗田、芹田、居町、大島島
富竹、上駒沢、下駒沢、柳原、金箱、朝陽
三輪、吉田、権堂、桜枝町、鶴賀、箱清水 など

吉家) もっと地域に役に立ち、必要とされるデイになるために前期に職員と当施設の柱について検討した。当施設は看護師の配置が週4～5日2名配置となっていたり、職員の配置も手厚い為、今後増加が予測され、家族の負担軽減にもなる認知症リハビリに力を入れ、地域に貢献したいとの結論になった。他の大きな規模のデイでは見切れない方、出て行ってしまふ、怒りっぽく他のデイでは見れない方の紹介が増えた。また、リハビリだけの半日型のデイを利用していたが、認知症が始まりだしてきたということで、当施設に移ってきている利用者もいる。認知症は初期が大切となり、医療との連携も必要なので、ケアマネと連携し受診などのお手伝いも行っている。リハビリは作業療法、回想療法、個別の関わり（帰り時に振り返り日記を書いたり）を中心に行っている。

生活動作リハビリは開設当初から力を入れている。通常のリハビリ（筋トレ、マッサージ、可動域など）に加え、自宅で生活していく中で不自由になってきた動作をケアプランに入れて頂き、練習を行っている。主に体の使い方をその方にあった方法と一緒に考え訓練する。

半日は、最近ではリハビリのみの半日が多くなっていますが、当施設は、入浴のみ・リハ入浴・入浴昼食・リハ昼食など様々な用途の半日に対応している。

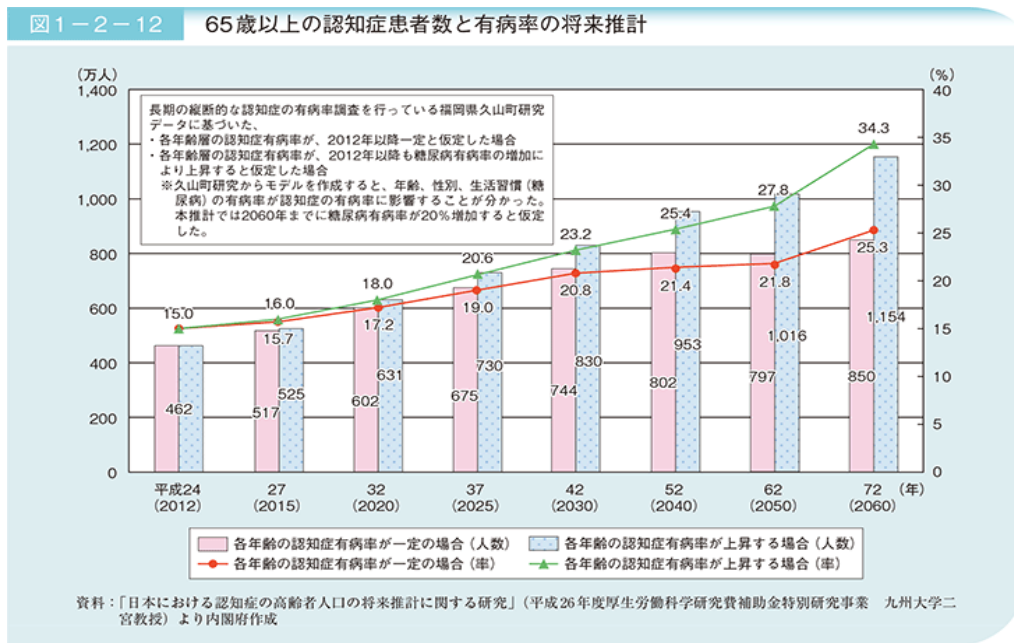
吉家) 費用を気にして半日を希望する方、デイに抵抗があり半日からの利用など需要がでてきている。当社は、様々な特徴のあるデイができてきているが、王道のデイとして地域の需要に答えられる体制を作り、必要となれる施設になりたい。

個別の入浴についても、乳癌などにより身体に手術痕がある利用者様が一人で入浴したいとの希望、入浴が好きでゆっくり入りたいなどの希望の方に好評頂いている。

個別のケアは、その方にあつたりハビリやケアを目的に取り組んでいます、利用者様からすると職員と1対1で会話できる場として楽しみにしている方が多い。

《 参考資料 》

平成 37 (2025) 年には 65 歳以上の認知症患者数が約 700 万人に増加
 65 歳以上の高齢者の認知症患者数と有病率の将来推計についてみると、平成 24 (2012) 年は認知症患者数が 462 万人と、65 歳以上の高齢者の 7 人に 1 人 (有病率 15.0%) であったが、37 (2025) 年には約 700 万人、5 人に 1 人になると見込まれている (図 1-2-12)



吉家) 今後は、認知症の方が増えてくることが予測できるので、より専門性を高め初期のリハビリなどを強化していきたい。

生活動作リハビリは、スロープの練習・階段・段差の練習なども行っている。施設内にリハビリ坂があるので、そこを利用し訓練を行ったりできる。

より、在宅で長く過ごせるためのリハビリにも力を入れていきたい。

《 質向上への取り組み 》

吉家) 利用者の人数が多く、どうしても職員はその方の問題点、目標を日々の業務に追われ忘れがちになってしまいます。ケアプランがあり相談員もデイの計画書を作成しているのに、活用がうまくできていない。なので、当施設では4月から記録内に「目標に対する取組」欄を設け毎回取組をきちんと行えるように、またデイの計画書から短期目標を抽出し一覧表にし、その日の利用者様の目標を朝確認してから業務にはいるように取り組んでいる。家族様用の記録もより詳細に書ききちんと家族様に伝えることができるようにしている。

サービス実施記録

様 利用日 平成 年 月 日 ()
 利用時間 午前 時 分 ~ 午後 時 分

◆健康状態

測定時間 : 体温 ℃ 脈拍 回 血圧 / SPO2 %

◆食事摂取量

主食 / 10 副菜 / 10 副々菜 / 10 おやつ 有 無

◆入浴

有 無 入浴時間 : ◆バット状態 交換 枚

◆個別機能訓練

計画通り実施 計画により実施しない日 実施なし (分間)

目標に対する取組 :
 リハビリのご様子 :
 担当:

◆内服

有 無 時間 : 特記事項 :

◆排便・排尿

排尿 排便

◆水分摂取量

トータル

◆実施記録

入浴の状況 : 担当:
 目標に対する取組 :
 1日のご様子 :
 担当:
 特記事項

◆ご家族様記入欄 (健康状態・その他 お気づきの点がございましたら記入してください。)

平成 29 年度 研修計画

株式会社長野保健福祉会

研修テーマ	対象者	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ヒヤリハット事例への対応	全職員			→						随時			
基本的な接遇・マナーの理解	全職員										○		
認知症の方への理解	全職員		○		○							○	
サービス計画の策定	全職員			○									
デイサービス施設基準	全職員	○								○			
虐待について	全職員					○							○
感染症について	全職員						○						
送迎時の動作	全職員								○				

吉家) 職員研修については、お決まりの安全管理・感染・虐待についてなどに加え、今年度は「施設を知る」ことを目的に基準についての研修を2回入れた。正直、現場の職員は自分のデイがどんな加算を算定していて、その条件基準、そもそもデイとはどんな目的の社会資源なのか、どんな基準で運営しているのか、知らない職員が多かった。

まずは初心に帰り、自分たちの働く施設・役割についてきちんと把握をする取組を行っている。

吉家) 29年度は、質の向上・認知症への対応を中心に活動をしています。

《質疑 ～要約～》

長澤様) 半日が様々な対応ができることはありがたい。半日の要望がふえている。
このたび紹介した利用者様もそうですが、大きなデイでは抵抗がある方なども多く
認知症の方は特にデイに抵抗がある方が多いので、こうゆうデイがあるとよいと思う。

柳澤様) 前回に引き続き、目標周知など質への取り組みを行っていることに安心しました。
様々なデイの形がある中で、王道のデイを貫いてほしい。
リハビリについては、生活動作リハビリが本来のリハビリだと思う。より強化し続けて
行ってほしい。

小林様) 目標を周知する取組は感心する。また認知症リハビリについて当社はまだ遅れているので
回想療法など学んでいきたい。
研修についても、当社も同じく自分の施設をどれだけ知っているか不安、こうゆう内容の
研修は必要だと思う。